

(別記様式)

平成24年度 京都府立宇治支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) 後期 ( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>京都府の特別支援教育を牽引し、地域社会におけるノーマライゼーションを推進する学校として以下の方針に基づいた学校経営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 教育理念「喜びはともにあること」の下、教育目標「自律」を実現するための教育を全ての学部をとおして行う。</li> <li>◆ 地域社会の中にある学校として、地域と連携し、地域に役立つ学校を目指す。</li> <li>◆ 京都府スーパーサポートセンター (以下、SSCと言う) の機能を生かし、各地域支援センター、総合教育センター等と連携し、京都府内全域の特別支援教育を進展する。</li> </ul>	<p>開校初年度にあたり、左記の経営方針を、組織運営、教育実践に具体化し、また、積極的な発信に心がけてきた。これまでの学校とは異なる運営システムと教育実践の在り方から、当初は戸惑いも見られたが、一貫した方針と丁寧な説明対応、学校公開等による情報の公開、そして何よりも児童生徒が自律に向けた力を付けてきていることから多くの理解を得てきており、学校評価においても、継続した取組に賛同を得ている。また、社会自立につながる職業教育、キャリア教育、地域社会との協働による教育の姿を具体化してきており、こうした方向性を更に進めることが課題となる。</p>	<p><b>【教育目標「自律」を実現する特別支援教育の更なる推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等を合わせた指導を中核とした授業の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSCとの連携による授業改善の推進</li> <li>・担任が指導する自立活動の更なる推進</li> <li>・学年制のメリットを生かしたキャリア教育の推進</li> </ul> </li> <li>○教職員の指導力の向上</li> <li>○学年制を生かした地域学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間カリキュラムの整理と系統化</li> </ul> </li> <li>○一人一人の将来の姿に合わせた希望進路の実現</li> </ul> <p><b>【SSCによる、子どもと保護者に届く特別支援教育の更なる推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○府内関係機関との信頼関係を強化し、役立ち感の実感を丁寧に確認しながら、活用の実効性を広げる取組を推進する。</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・適正且つ効率的な学校経営の推進	・学校経営方針を各学部等で具現化するスモールマネジメントの実施	B	<p>学部等を中心としたマネジメントに加えて後期には次年度以降の教育課程の深化・改善に向けて全校枠で検討会議を立ち上げ推進している。衛生委員会を中心に勤務状況の把握・改善に努めてきた。</p> <p>人材育成部を中心に経験年数に応じた研修と特別支援の専門性を向上させる研修を計画的に積み重ねてきた。具体的な授業の質等の向上への反映を検証し系統的な実施を継続すること。</p> <p>HPの更新、たよりの発行等によって学校の成長する姿を地域に公開することから地域の信頼を得ることに貢献した。公園清掃、体育館清掃等の地域貢献授業も同様の趣旨から取組が進んだ。</p> <p>一層の丁寧な取組と発信により、理解と活用が進んできている。視覚・聴覚相談、研修支援のニーズが高く昨年数を大きく上回った。連携協議会を予定どおり実施し、各市の状況に応じた多面的な連携を積み上げている。</p> <p>学校公開、自己評価アンケートを計画</p>
		・予算計画に基づく計画的な予算の執行 (定期点検の実施)	C	
		・「ノー残業ディ」の実施等によるメリハリのある勤務の推進	B	
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・ニーズに基づいた研修会の企画実施 (10回/年 以上)	A	
		・医療専門職派遣事業等の活用による外部人材の活用	B	
		・HPによる積極的情報発信 (更新 5回/月 以上)	A	
	・ホームページ等による多角的な学校情報の発信 ・地域に貢献する授業や事業の推進	・地域清掃等の地域貢献型授業の実施	A	
		・地域住民等が参加できる諸事業の実施 (3回/年 以上)	B	
		・スーパーサポートチームを活用したニーズに応じた相談支援の実施	B	
	・京都府スーパーサポートセンターの機能を生かした相談支援、研修研究の更なる推進 ・地域支援センターうじの機能を生かした、授業改善に繋がる相談支援の推進 ・宇治市・城陽市と連携したネットワークの形成	・授業改善研究の実施 (研究結果の発信)	B	
・SSC研修会の計画的実施 (10回/年 以上)		B		
・各市関係機関との連携協議会の開催 (2回/年 以上)		B		
・保護者、地域住民による学校評価を活用した学		B		
・学校公開日の計画的実施 (1回/月)	B			

	校経営、授業実践の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート等による自己評価の実施及び公開（2回/年 以上）</li> <li>学校評議員会議（3回/年 以上）の開催及び第三者評価の実施</li> </ul>	B	B	的に実施し、これらを基に学校評議員、第三者評価者に公開・説明をし、評価を得ることから学校経営を改善してきた。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安全を具体化する取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災計画の見直し及び避難訓練の計画的実施（2回/年 以上）</li> <li>医療的ケア安全委員会（1回/月）による安全で適正なケアの実施</li> <li>緊急時対応訓練の実施（2回/年 以上）</li> <li>教具等の安全点検の組織的な実施（2回/年 以上）</li> </ul>	B			B	防災計画を一部見直し、避難訓練を予定どおり実施した。後期には、宇治市、PTAとの連携により地域住民と協力した避難訓練を実施できた。医療的ケアは、安全委員会の定期開催によって、組織的動きがとれるようになった。安全点検に組織的、継続的に取り組んだ。
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の関係機関等と連携した系統的な地域学習の推進</li> <li>P D C A サイクルに基づく実践評価</li> <li>全ての教育活動において行う自立活動の推進</li> <li>交流及び共同学習の計画的な推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年進行を意識した系統的な地域学習の実施</li> </ul>	B	B	地域との様々な連携を積み上げながら多様な地域学習を実施。系統化のモデル授業を作ってきている。「キャリア教育プロジェクト」からの発信を受け、学部単位での授業公開・授業研究を進めてきた。保護者学習会等の実施により、自立活動の意義理解が進んでいる。各授業における位置づけと指導の充実が継続課題。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開、授業研究の実施（各学部 5回/年 以上）</li> </ul>	B				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画を活用した授業評価の実施</li> </ul>	B				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動支援担当の機能を生かした担任が行う自立活動の充実（肢体不自由クラスにおける個別の指導プログラムに基づく指導改善の実施）</li> </ul>	B				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズに基づく居住地校交流の計画的な実施</li> </ul>	B					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースにおける希望進路の実現（企業就労 5名以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な企業開拓の実施</li> </ul>	B				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>カフェJOYを中心とした宇治支援学校の特性を生かした作業学習、職業教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画に基づいた計画的組織的な進路指導の実施</li> <li>ものづくり、サービスを一体化させた宇治支援独自の作業学習、職業教育の実施</li> </ul>	B			B	夏期休業中に全校での企業開拓を実施し、その後の実習等に結びついた。カフェを中心にした多面的な作業学習の展開をモデルとする等、担当者の組織的動きを背景に各学部でのキャリア教育の観点を持った実践に広がりが見られている。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部における系統性のあるキャリア教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導・キャリア教育担当の機能を生かした各学部における授業の改善</li> </ul>	B				

学校関係者評価委員会による評価	<p>○2年目を迎え、地域の中で本校への批判的な評価や不安は聞かれなくなった。新しい学校の方向性、教育の方法等が学校公開等の機会を活用した積極的広報、丁寧な説明により信頼と理解が広がってきていると思われる。この方向で継続されたい（共通した評価）。</p> <p>○就労先の拡大は急務であるが、学校単独での動きには限界があり、関係機関と連携したネットワーク的対応を工夫されてはどうか。</p> <p>○地域支援は、宇治市の特別支援教育を進める上で、大変に役立っている。</p>
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>○開校3年目を迎え、地域と連携し、自立と社会参加を実現することを目的とした教育効果を上げること、併せて地域におけるノーマライゼーションを推進する学校として、一定の評価を確認することを目的に、学校評価制度も活用しながら一体感のある学校経営、組織的な人材育成、キャリア教育の観点からの授業改善、教育課程の改善を一層推進する。</p> <p>○各教育局、各市町、各学校との連携を一層強め、個別支援、学級経営・授業改善への支援、支援の継続を具体的に実現することから、京都府全体の特別支援教育の向上に資する（SSC）</p>
---------------	--